

東北大学 オープン&クローズ戦略第2回国際ワークショップ

Program / プログラム >>

– Morning Session/English Session –

10:00 開会挨拶/Opening Remarks

Itaru Homma/本間 格 | Professor, Institute of Multidisciplinary Research for Advanced Materials, Tohoku University / 東北大学 多元物質科学研究所 教授

10:10 Presentation 1 / 講演 1 :

「(仮題)ケンブリッジ大学における社会実装の狙いと実際」

Caroline Hyde氏 | Univ. Cambridge Enterprise, Head of Ecosystem Initiatives and Partnerships; Dr. Terry Parlett | Commercialization Director

10:50 Presentation 2 / 講演 2 :

"Accelerate to Unicorn: How Universities Systematically Create Billion-Dollar Companies"

Dr. William Lovegrove | UCL Business Ltd, Director of Strategic Innovation Partnerships

11:30 Q&A and General Discussion

12:00 (Lunch Break/ 昼食休憩)

– Afternoon Session/Japanese Session –

13:30 講演 3

「オープン・クローズ戦略の基本的な考え方」

江藤 学先生 | 一橋大学イノベーション研究センター特任教授

14:15 講演 4

「オープン&クローズ戦略の真の価値と国際標準化における実践的展開」

小出 啓介氏 | 川崎重工株式会社 水素戦略本部, 特別主席 (事業戦略担当)

兼 シンクタンク部 部長

15:00 講演 5

「事業構想を共有する研究段階からのオープン&クローズ戦略への挑戦」

大原 慶久氏 | 株式会社日本総合研究所創発戦略センター スペシャリスト

15:15 質疑応答&総合討論

江藤 学先生、小出 啓介氏、大原 慶久氏

15:55 閉会挨拶

本間 格 | 東北大学 多元物質科学研究所 教授

主催 東北大学多元物質科学研究所

2026年1月15日 木曜日 10時~16時
日本橋ホール (日本橋高島屋三井ビルディング9階)

近年、日本では研究開発には成功し当初の技術優位性を確保しているものの、それが市場拡大時の継続的なビジネスの優位性の維持に十分利用できていないとの指摘があります。海外の高収益企業の成功例をみると、技術コアを独占すると共に、製品化やサービス提供までのバリューチェーンを「標準化」を介して開放し、多くの企業とエコシステムを形成する「オープン&クローズ戦略(コア技術をクローズ領域で守りつつ、その他技術や知見をオープン化して市場を形成する戦略)」を、意図して、もしくは、戦略選択の結果として取っている企業が多くあります。

本ワークショップでは、産学連携研究開発において、標準化・知財を含む「オープン&クローズ戦略」を国際的視点から深掘りし、枠組みや事例を共有、国内外の研究開発・標準化・知財・産学連携の成功要因や課題を議論し、今後の実践(企業・大学・研究機関)につなげます。

事務局》》東北大学多元物質科学研究所 本間, 産学連携機構 浅井 飯野

*お問合せは右記 Web サイトに記載の問合せフォームよりご連絡下さい

》》詳しい講演内容と講演者プロフィールは裏面をご覧ください

本ワークショップは、令和7年度経済産業省委託事業「基盤的共同研究開発に関するオープン&クローズ戦略策定の推進・体制整備強化に向けた実証調査事業」の一環として開催しております

申込方法》》

参加費無料 | 申込順 100 名

オープン&クローズ戦略にご興味のある方ならどなたでもご参加いただけます

東北大学多元物質科学研究所 Web サイト (「イベント」よりお入り下さい)

<https://www2.tagen.tohoku.ac.jp>

または2次元コードより

お申込み下さい



東北大学 オープン&クローズ戦略 第2回国際ワークショップ

2026年1月15日木曜日 10時～16時 | 日本橋ホール (日本橋高島屋新館/日本橋高島屋三井ビルディング9F)
<周辺MAP> <ビルB1階・1階からホールへのアクセス>

講演内容と講演者プロフィール

講演1 「(仮題)ケンブリッジ大学における社会実装の狙いと実際」

私たちは、ケンブリッジの研究を世界的なインパクトへと変革するために、人と人をつなぎ、力を与え、その実現を可能にします。アイデアの育成から投資に至るまで、今日の世界が直面する課題に取り組む研究者、イノベーター、そして才能あるチームに対し、多様な支援を提供しています。ケンブリッジ大学のイノベーション部門として、私たちはケンブリッジの研究成果を社会実装へとつなげ、世界をリードする経済的・社会的インパクトを創出することを支援しています。

Caroline Hyde氏 | Univ. Cambridge Enterprise, Head of Ecosystem Initiatives and Partnerships; Dr. Terry Parlett | Univ. Cambridge Enterprise, Commercialization Director

Caroline Hyde氏は、Allia Future Business Centres LtdのCEOから2020年に本職に参加。前職では、最初のイノベーション/インキュベーションセンターを設立し、地域のネットワークを構築。20年以上にわたり、ケンブリッジ周辺で起業とイノベーションに携わっており、ケンブリッジのエコシステムに広いネットワークを保有。これらの経験に加え、英国の大学における研究・開発・事業化部門で働いていた経験も活かし、国際的パートナーが最も充実した形で連携の恩恵を受けられるようにしています。Terry Parlett博士は、ケンブリッジ大学発のライフサイエンス・医療技術の商業化を担当。幹細胞、がん予測、ワクチン等の事業化を推進。元ガイズ&セントトーマス病院技術移転責任者。免疫学・遺伝子サイレンシング博士。2018年より現職。

講演2 “Accelerate to Unicorn: How Universities Systematically Create Billion-Dollar Companies”

世界の大学はスタートアップ創出に優れるが、成長段階で企業を維持するのが困難です。多くの将来のユニコーン企業はシリーズA/B段階で資金調達や市場アクセスを求めて海外へ移転するリスクがあります。そこで「Accelerate to Unicorn」という枠組みを提案します。スケールアップ指導、国際市場アクセス、企業連携、スピニング戦略、AI活用の5つの柱で課題に対応し、DeepMind、Synthesia、Surrey Satellite Technology等のケーススタディにより、大学が独自の強みで企業をユニコーン規模に育成・維持する方法を示します。

Dr. William Lovegrove | UCL Business Ltd, Director of Strategic Innovation Partnerships

William Lovegrove博士はUCLイノベーション&エンタープライズで戦略的パートナーシップを推進。英国宇宙庁支援のSpace South Central議長やロンドン量子連携議長なども務めています。元起業者でCEO経験があり、ベンチャー投資や企業成長、売却を経験。これらの実践経験を活かし、大学の技術移転を産業パートナーにとってより信頼性・価値あるものに改革。さらにサリー大学では企業をパートナー視点で捉え、技術移転機能を再設計。ノッティンガム大で博士号取得。

講演3 「オープン・クローズ戦略の基本的な考え方」

研究成果は基本的には開発者のみを知るクローズの状態で作られる。その成果の一部を、徐々にオープンにすることで、市場を開拓したり、コストダウンを実現したりしつつ、クローズ状態を維持した部分で利益を確保するのがオープン・クローズ戦略だが、オープンの仕方には様々なバリエーションがある。さらにエコシステムでビジネスを考えなくてはならない現代では、オープンやクローズの目的や効果も様々だ。そこで今回は、オープン・クローズ戦略の基本的な使い方について整理する。

江藤 学先生 | 一橋大学イノベーション研究センター特任教授、独立行政法人経済産業研究所(RIETI)EBPMセンター:アドバイザー・ボードメンバー、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)イノベーション戦略センター(TSC)フェロー

1983年大阪大学基礎工学部卒、1985年同大学院修士課程修了後、通商産業省に入省。以後、科技厅、外務省、産総研、経済産業省などで産業技術政策や基準認証政策に従事。2008年に東北大学で博士(工学)号を取得し、同年から一橋大学教授。2011～2013年には日本貿易振興機構(JETRO)ジュネーブ事務所長に赴任、その後一橋大学に戻り産業政策とイノベーション、知財・標準化とビジネスといった観点で教育・研究に従事。著作として「標準化ビジネス戦略」(日本経済新聞出版社)など。

講演4 「オープン&クローズ戦略の真の価値と国際標準化における実践的展開」

国際標準化活動を通じて培った経験をもとに、オープン&クローズ戦略の本質と競争優位構築の実践的アプローチについて解説します。

小出 啓介氏 | 川崎重工株式会社 水素戦略本部 特別主席(事業戦略担当)兼 シンクタンク部 部長

小出啓介氏は、川崎重工株式会社 水素戦略本部 特別主席(事業戦略担当)兼シンクタンク部 部長として、水素エネルギーや環境ソリューション分野の事業戦略に従事しています。これまで車載機器やマルチメディア機器の国際規格(USBなど)の策定に携わり、IECをはじめとする国際標準化分野で中心的な役割を果たしてきました。長年にわたるISO・IEC等で国際標準化活動に従事し、産業競争力強化に資するルール形成を推進してきました。IEC/TC 100関連の国際議長・幹事を務め、2023年にはIEC 1906 Awardおよび経済産業省 産業技術環境局長賞を受賞しています。

講演5 「事業構想を共有する研究段階からのオープン&クローズ戦略への挑戦」

循環型経済が進展し、単独の製品や事業だけでは価値創出が難しい今、研究初期段階から産学で「事業構想」を共有することが不可欠です。市場を拓くオープン戦略と収益を守るクローズ戦略を、研究者の熱意といかに織り込むか。現場の試行錯誤から見えた、大学への期待と新たな連携の知見を解説します。

大原 慶久氏 | 株式会社日本総合研究所 創発戦略センター スペシャリスト

大原慶久氏は、民間企業でヒューマノイドロボット開発、ヒューマン-ロボットインタラクションの研究に携わり、2020年から日本総合研究所の創発戦略センターにおいて、スペシャリストとして活動しています。現在は、ソフトウェアシステム分野、エネルギー分野を中心に、EV車載蓄電池のリユース・リサイクル、過疎地域での持続的な交通・エネルギー事業、AI/IoT/ロボットなどを活用したシステム構想・事業開発に従事しています。